

生徒・保護者の皆様へ

## 男女平等について話し合い、取り組んでみましょう

男女共同参画社会の実現をめざし、社会的・文化的に形成された男女の固定的な役割分担意識にとらわれず、あらゆる分野の活動に男女ともに参画できる男女共同参画の視点に立って、一人一人の子供の個性や能力を伸ばすことが大切です。

大人に男女の固定的な役割分担意識がある場合、それが子供に影響し、先入観を生み出す原因となります。そこで、大人が男女共同参画の視点で自らの言動をふり返りながら話し合う機会が必要です。また、大人の「子供に期待する人間像」の中に、性別による偏りがないかを見直すことも必要です。

次の「場面1」から「場面4」は男女平等の関係を築くために、日常生活で想定される内容です。これらを活用し、男女平等について話し合い、取り組んでみてください。

### 場面1 お互いに暴力はふるわない

「お互いを尊重しつつ、仲良くしてけんかしないようにしよう。」  
「そうね。あと、『男のくせに』『女なら』  
といった言動にも気を付けていきたいわ。」



**DV**(ドメスティック・バイオレンス…「配偶者等からの暴力」)は、**女性の人権や生命を脅かす緊急の課題**となっています。テレビなどで、異性に強引に交際を迫るなど、実際はDVに該当すると思われる描写を話題に、話し合ってみましょう。

暴力を容認しがちな社会風潮、女性を男性より低く見る意識、男女の固定的な役割分担意識等は**DVやデートDV(交際相手に対する暴力)**につながり、**男女共同参画社会の実現への妨げ**となります。

### 場面2 「自分らしさ」で職業選択

「理工系の大学へ進学して、将来は研究者をめざすわ。」  
「ぼくは、看護師を目指して実習中なんだ。」



男女の固定的な役割分担意識の一つに、**親が考える子供の職業観**があります。しかし、**職業は性別によって区別されるものではありません。**

男女雇用機会均等法では、募集や採用、配置や昇進等において男女差をつけることが禁止されています。それを受けて、現在、「保育士」「看護師」「客室乗務員」などの呼称が使用されています。性別に関係なく一人一人の興味や関心で職業を選択する意識が必要です。

# 男女共同参画社会の実現をめざして

## 場面3 みんなで計画し、みんなで決める

「今年の文化祭についてクラスでの出し物を決めていこう。」  
「まずは、みんなの意見を聞くことから始めよう。」



「参画」とは、例えば、地域の会議やイベントなどに「参加」するだけでなく、その「計画や決定の段階から関わる」ことを意味します。家庭内では、**お互いに対等な構成員**として意見を出し合うことが大切です。

そこで、「遊びに行く場所を決めるとき」「高額商品を買うとき」「子供の進学や就職」の場合など、特定の人意見だけで決定するのではなく、全員が参画して決定することが大切です。

## 場面4 仕事も子育ても 男性も女性も

「次の学校行事には休みを取ってぼくが出席するよ。」  
「ありがとう。今月は早く帰れそうだから、食事は私が作るわ。」



**男女が協力して育児や家事を行う**ことは、互いに助け合い、それぞれの能力を発揮して社会に貢献し、よりよい社会を築くことにつながります。

**男女が互いに仕事と子育て等をバランスよく両立できる社会の実現**に向け、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を見直すことが大切です。「家事や育児は女性の役割」と決めつけずに、男女が協力して行います。

お互いを尊重し合える 男女平等の関係を築こう！